

令和6年度終始業式 校長あいさつ

令和6年11月11日（月）

○ 皆さんこんにちは。今年の11月は暖かいと天気予報で言っていましたが、立冬ともなれば、やはりそれ相応の寒さでストーブは欠かせないようです。今年是一日の寒暖差に加え、日による寒暖差が大きくて、体に答えている方も多いと聞きます。若い皆さんは大丈夫かもしれませんが、インフルも流行ってきていますので、健康には十分留意をして下さいね。2学期終業式、3学期始業式が11月に一度に行われるという学校は、長野県内でも本校だけでしょう。私の知る限りでも40年以上、このシステムは継続しているわけですが、一年のまとめのために、必要な3学期の日数を確保するという意味や、いよいよ3年生の最終盤に切り替えるという意味ではちょうど良いタイミングかもしれません。

○ さて、1, 2年生の皆さんは期末テストが終了し、ほっとしているところではないでしょうか。3年生の皆さんは通常の授業もあと二週間ほど、共通テスト、一般入試に向けての準備もいよいよ佳境を迎えているところでしょうか。この時期になってくると、思うような成果が上がらず、焦ったり、いら立っている人も少なくないのではないのでしょうか。つつい家族にあたり、生活のリズムが乱れたりもしがちです。でも、やはり受験に特効薬はないんです。私もこの時期の多くの3年生と接してきましたが、結局2か月後の自分を信じて、先生方の言うことにも耳を傾けながら、地道に努力を続けるしかないんです。これまでの努力が不十分だった、人の言うことを素直に聞けなかった、という人はなおさらです。これからの2ヶ月間、自分の心を柔らかかにして、ひたむきに自分に集中してみてはいかがでしょうか。もし仮にそれで成果が上がらなかったとしても、全力で目的に向かって打ち込んだという経験は、絶対無駄にはなりませんし、何より、みなさんの人生はこれがゴールではありません。今は人生の一つの過程、これからの数カ月とその結果がどうであろうとも、これからの人生は魅力的で、多くのワクワクする冒険が待ち構えています。そう信じて頑張ってください。先生たちは心からそんな皆さんのことを応援しています。

補足ですが、特編授業中の最後の一伸びは捨てたもんじゃありません。何といっても直前対策（一夜漬け）を得意とする深志生なのですから、騙されたと思って前期、後期の特編はぜひ粘ってみて下さい。

○ さて、今日のお話のテーマは、コミュニケーションの大切さです。そんなこと言われるまでもないとお思いでしょうが、このことをあらためて痛感するお話をこの2学期に聞いたので、少しお話させてください。

- 先日の防災訓練の時も少しお話をしましたが、9月に能登で豪雨災害があった、まさにその前日だったのですが、金沢市で北信越の校長の研修会があって、私も参加してきました。

テーマは、元旦の地震のこと。被災地の高校はどのような対応を行ってきたかというテーマでした。研修では大きな被害を受けた珠洲市や輪島市などの4つの高校の校長先生方が体験されたことをお話しくださいました。

- 9月と言えば、震災から8ヶ月以上がたっていたのですが、まだ地震以前の学校生活に戻っているわけではないそうです。何よりも地盤の変形、隆起などによって立ち入れない校舎も残っていて、その様子もスライドの写真で見せていただきました。段違いになってしまった渡り廊下だとか、そんな中、一日でも早く以前のように学びの機会を提供したいと奮闘されている先生方の様子が語られ、また生徒の皆さんも地域の方々を元気づけようとして行っている活動なども紹介されて、胸に熱い思いがこみ上げてきました。

- そんな中で、私が最も学んだことは、やはり地域と学校が事前に打ち合わせを繰り返しておくことの必要性についてでした。市町とは、災害の際には体育館を避難所として使いますという書面を交わしていただけで、実際被災者として避難される方々とは、コミュニケーションを持っていなかったそうです。

元旦の地震後、どの学校の先生方も被災者となり、道路も寸断されましたので、多くの先生方はしばらく登校できなかつたそうです。校長先生が2日後になってようやく高校にたどり着いたときは、避難所の管理運営をする場所もないほど、学校では多くの被災者の方々が生活を始めていたそうです。何とか事務室を避難所の管理運営、連絡調整室として確保したあとは、校長先生や避難所運営のために派遣された自治体の方も、狭い事務室で寝泊まりをしていたとのことでした。そして最も困ったのがトイレだったそうです。どこをトイレとすればプライバシーが守れるのか、使用済みの簡易トイレの袋の山をどこでどのように保管したり処理していくのか、衛生的な暮らしを確保するためにも、そしてできるだけ早く学校を再開するためにも、その点が一番の課題となったそうです。こうした中、ライフラインや道路が復旧した後も、生徒が登校しての学習活動を再開するのはなかなか困難で、何とかオンラインによる授業を再開させて、それを新年度まで続けざるを得なかつたとのことでした。

- もし自分の居住地で起こったら…。きっと参加していた校長先生全員が、そう思ったに違いありません。私がこの話を通じて思ったのは、事前に地域の代表の皆さんと学校が顔見知りになっておいて、地域の避難訓練を学校で行ったり、どこに避難をしていただくのか、鍵はどうするのかは勿論、どこ

に簡易トイレ使用場所を設置するか、といったことまで、被災時を想定して決めておくことが必要であるということです。深志高校も周辺町会の指定避難所となっています。ありがたいことに、本校では4年前から地域交流委員会の皆さんが、地域の方々と交流したり、代表の皆さんとそうした話し合いを進めて下さっています。その結果、地域の防災倉庫も大体の北側に隣接して作られていますが、そうした相談がなされてきたということ、皆さんはご存知でしたか。もちろん、今後さらに想定される様々なことを考えたり詰めていかなければならないところはあると思いますが、地域交流委員会の皆さんのこうした活動は、いざという時に大勢の人々の幸福につながる活動の一つだと感じました。そしてそれは、状況が落ち着いたらいち早く学校を再開するという、自分たちの幸福にもつながってくるのだと感じています。こうしたコミュニケーションの存在を、ぜひ全校の皆さんで共有化し、長野県の他の高校にも知ってもらったらどうだろうかとも感じています。

- さて、生徒会や部活動など、2年生を中心とした新体制もスタートしています。今の時期、私が言うまでもなく、確実な引き継ぎとこれまでの活動の見直し、一年間の準備計画を立てる作業が行われていることと思います。

どの場面にしてもしっかりと打ち合わせが必要です。メールや配信で済ませることが多くなった時代ではありますが、やはり言葉足らずの文章だけでは十分な意思疎通はできません。ましてや今年度の振り返りなどは様々な価値観がぶつかり合うところでもあって、互いに顔を合わせて十分な討議が必要となるのではないのでしょうか。先ほど申し上げた防災に関する事前の打ち合わせと全く同様です。本番に備え、お互いにどのような気持ちでいるのか、しっかりコミュニケーションを取ってほしいというのが私の願いです。

- さて、最後に、もう一度3年生の皆さんへ、ここまでやってきた自分の力と、これからの伸びしろと今やっていること、やっている教材を信じ、最後まで粘り強く挑戦してほしいと思います。応援しています。

1, 2年生へ、現学年も半分以上が過ぎました。今の生活を振り返り、これから続く深志高校での生活で何を伸ばしていきたいか、今の自分を振り返りながら考えてみて下さい。また、今の自分の見える範囲の外にも目を向けて、幅広く興味関心を抱き、学び、新たな自分にも気が付いてほしいなとも感じています。

- 能登の先生方が、多くの犠牲者や傷ついた方がいらっしゃる中で本当に申し訳ないのだが、生徒達が無事で健康に過ごしていることだけはどうも嬉しいことだったとおっしゃっていました。いろいろとうまくいかないことや、切ないこともあるとは思いますが、皆さんが心も体も健康で、命を大切にしてくださいと、我々教員にとっても何よりもありがたいことであることを付け加えて、終わりにしたいと思います。